

# 道写協

## 北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目北海道新聞社事務局内  
 011・210・5731(直通) 011・210・5734(FAX)  
<http://www.dosyakyu.org/>

第103号

### 第55回展審査委員長

## 大石芳野氏に決定

第五十五回写真道展は、五年ごとに中央から審査委員長を招聘しての記念展となっております。役員会で審査委員長の選考について協議してきた結果、写真家の大石芳野氏に決定いたしました。大石芳野氏は第三十八回写真道展の審査委員長をしており、今回は二度目の審査となります。

審査は例年通り二日間にわたって実施されます。三月一日(土)午前10時より北海道新聞社会議室において、橋本博、武藤省吾ほか二十二名の道展審査委員により各部共第二次審査までおこない、応募総数の五分の一に絞ります。三月二日(日)は大石芳野審査委員長が加わり、三次審査は入選候補作品の選別、四次審査では入選作品の決定、五次審査は入賞作品の選別、六次審査において各部門の入賞作品、大臣賞、道展大賞が選ばれます。

第五十五回写真道展の公募は、十月に道新の全道版にすでに社告が掲載されています。また各支部に応募要項も送付されていますが、概要は次の通りです。

応募締め切り 二〇〇八年二月十五日(金)  
 サイズなど 単写真 四つ切プリント  
 デジタルはA4も可  
 三月上旬各個人宛に通知  
 下旬北海道新聞紙上に掲載  
 二〇〇八年五月十八日(日)

- 北海道新聞社特別会議室で開催  
 展覧会 二〇〇八年五月十三日(火)～五月十八日(日) ギャラリー大通美術館  
 「審査員・会友作品展」も同時開催
- ### 大石芳野氏のプロフィール
- ・一九四四年 東京生まれ
  - ・一九六六年 日本大学芸術学部写真学科卒業  
 在学中に訪れたベトナムで強い衝撃を受け、卒業とともにフリーランスのドキュメンタリー写真家として活動。アジア、西アメリカ、ヨーロッパで取材を行い、戦争や内乱の状況、人々のその後の姿を愛と敬意を持って撮影し続けている。
- ### 受賞歴
- 一九八二年 日本写真家協会年度賞「無告の民」
  - 一九八九年 日本写真家協会年度賞「夜と霧と今」
  - 一九九〇年 講談社出版文化賞、アジア、アフリカ賞
  - 一九九四年 芸術選奨文部大臣新人賞、日本地名研究所風土賞、日本ジャーナリスト会議奨励賞「カンボジア苦界転生」
  - 一九九八年 児童福祉文化賞大賞「活気あふれて、長い戦争の後」

こんな写真を  
 待っています  
 審査員から

二〇〇一年 第二回土門拳賞「ベトナム 凜と」  
 二〇〇七年 紫綬褒章受賞

## 第一部 自由

■河江 利幸

既成概念にとらわれないことなく

第一部「自由」の部門に関して自由だからといえ、どのような作品でも応募して構わないと思われ、曖昧に応募される作品が毎年見受けられます。写真道展審査会では第一部「自由」の部の審査基準としては、題材が「人間・風土・生活・四季の中の生活模様・風土に生きる人間やその生活・個性的で創造的発展性・テクニク・フォト・デジタル表現処理加工」などの作品を選定しつつ、第二部や第三部のネイチャーフォト関連作品は部門外として落選としています。良い作品が部門選定に間違い落選となる事が多く大に見受けられ、毎年審査会でも話題となっています。また同一作者が類似的な作品を二部門に分けて審査員選考任せに応募されている方も数多く見受けられます。応募の際には作品募集要項を良く理解して作品創りし応募してほしいです。写真は身の回りに起こる事象を記録・表現することで感動と観察力によって創り出されるものです。他人の真似でなく身近なものに目を向けて、既成概念にとらわれない事なく個性豊かな作品表現を「第一部」では期待しています。最近銀塩写真を取り巻く環境が厳しくデジタル

心に残る旅がある

心の印画紙に焼き付けたい旅があります。  
 旅の出会いはフォトジェニック。  
 カメラ片手に出かけてみませんか。

◆お問い合わせ・お申し込みは  
**TEL(011)241-6401**  
 ホームページ <http://www.doshinkanko.com/>

営業時間  
 9:30～18:00  
 年末年始を除き年中無休  
 12/29～1/3は休業

旅行企画・実施  
 安心と信頼の **道新観光**  
 〒060-0042 札幌市中央区大通西3丁目道新ビル北一条館1階 道新プラザ内